

1 沿革

年	月	事 項	年	月	事 項
大正 8 (1919)	12	開港60年・自治制30周年記念事業として図書館の建設を計画。	昭和 48 (1973)	11	「横浜市総合計画1985」策定。方面別図書館建設の方針が出される。
	10 (1921)	6 横浜公園内の建設事務所内仮閲覧所で図書の閲覧開始(横浜市図書館の創立)。		49 (1974)	10 磯子図書館開館。市立図書館2館となる。
	12 (1923)	9 関東大震災により建物と蔵書を焼失。 12 中村町のバラックに仮閲覧所を設置し、閲覧開始。		52 (1977)	4 山内図書館開館。市立図書館3館となる。
	13 (1924)	3 横浜公園内に仮本館が竣工し、落成記念に震災展覧会を開催。 4 閲覧業務を実施。 9 館外貸出を実施。		53 (1978)	11 戸塚図書館開館。市立図書館4館となる。 横浜市で初めて貸出にコンピュータ方式を採用。
昭和 2 (1927)	7	旧老松小学校跡に横浜市図書館竣工。		54 (1979)	5 戸塚図書館で視覚障害者サービス開始。
	5 (1930)	1 『横浜市図書館報』創刊。		55 (1980)	1 鶴見図書館開館。市立図書館5館となる。 5 金沢図書館開館。市立図書館6館となる。
	9 (1934)	11 巡回文庫開設(4隣保館に図書の一括貸出)。		6	磯子図書館(フォトチャージ式)、山内図書館(記名式トークン)の貸出方法をコンピュータ方式に転換。
	14 (1939)	4 町村合併により、都筑郡都岡村、田奈村、及び鎌倉郡瀬谷村の各図書館を廃止し本館閲覧所として設置。		7	『こだま』『ひろば』を統合し、図書館報『よこはま』創刊。
	19 (1944)	10 一般閲覧室を市会議場として使用。		8	港北図書館開館。市立図書館7館となる。
	20 (1945)	3 横浜連隊区司令部の接収により戸部小学校に移転。図書館の建物は、終戦後米軍に続いて市復興局が使用。 9 戸部小学校から教育会館に移転。		9	中国・上海図書館との図書交換開始。
	22 (1947)	8 移転先より野毛に復帰。 9 開架式で閲覧業務を再開。		56 (1981)	1 中国・遼寧省図書館との図書交換開始。 4 図書館間の連絡車が稼働。 10 横浜市図書館創立60周年記念講演会・パネル展開催。
	25 (1950)	4 館外個人貸出開始。 図書館法公布で閲覧無料となる。		12	「よこはま21世紀プラン」策定。1区1館建設及び中央図書館建設方針を確立。
	29 (1954)	10 団体貸出事業開始。 読書週間行事として1日図書館長(女優 岸恵子)実施。		57 (1982)	5 保土ヶ谷図書館開館。市立図書館8館となる。
	32 (1957)	3 『郷土よこはま』創刊。		58 (1983)	2 戸塚図書館で団体貸出開始。
	33 (1958)	8 巡回緑陰子供図書館を日吉の慶応大学構内等で実施。		59 (1984)	3 金沢図書館、港北図書館で団体貸出開始。
	34 (1959)	1 国立国会図書館と相互貸借を開始。 5 「サンディエゴ＝横浜友情文庫」を特設。 7 貸出文庫用自動車購入。翌年1月より本格的に配本開始。		60 (1985)	1 瀬谷図書館開館。市立図書館9館となる。 3 保土ヶ谷図書館で団体貸出開始。
	35 (1960)	5 日吉閲覧所開設(44年9月団体貸出に移行)。		61 (1986)	5 旭図書館開館。市立図書館10館となる。
	38 (1963)	1 新館増改築工事竣工。		10	「横浜中央図書館基本構想委員会」設置。
	43 (1968)	5 第1回母親読書教室を開催。		62 (1987)	1 港南図書館開館。市立図書館11館となる。 4 地域図書館の火～木曜日の開館時間を午後7時まで延長(金曜日は以前より7時)。
	44 (1969)	8 団体貸出用広報『ひろば』創刊。		5	『横浜市中央図書館基本構想委員会報告書』提出される。
	45 (1970)	4 横浜市図書館報『こだま』創刊。 8 移動図書館「はまかぜ1号・2号」による巡回貸出開始。		10	神奈川図書館開館。市立図書館12館となる。
	47 (1972)	10 『横浜市図書館行政の施策と展望(意見具申)』(横浜市社会教育委員会議)が出される。		11	各図書館報を統合して横浜市立図書館報『横浜』創刊。「文化の日」開館開始。
				12	保土ヶ谷図書館、金沢図書館で視覚障害者サービスを開始。
			昭和 63 (1988)	1	山内図書館改修工事竣工、団体貸出開始。
				3	横浜市図書館貴重資料展示会「100年前の横浜大探検」開催。
			平成 元 (1989)	2	泉図書館開館。市立図書館13館となる。

年	月	事 項
平成元 (1989)	3	栄図書館開館。市立図書館14館となる。 『横浜市中心図書館資料収集検討委員会 報告書』が提出される。
	5	中図書館開館。市立図書館15館となる。 「こどもの日」開館開始。
	11	「よこはま21世紀プラン」第3次実施計画策定 により、中央図書館・分館を含めた図書サー ビスネットワーク確立の方針を打ち出す。
2 (1990)	1	中央図書館建設のため横浜市図書館休館。
	3	横浜市図書館仮設館開館。 山内図書館で視覚障害者サービスを開始。
	9	横浜市図書館を解体、中央図書館建設工事 開始。
	10	泉図書館で視覚障害者サービス開始。
3 (1991)	4	神奈川県図書館情報ネットワークシステム (KL-NET)に加入。 パンクーパー公共図書館との図書交換開始。
	10	中図書館で視覚障害者サービス開始。
4 (1992)	10	栄図書館で視覚障害者サービス開始。
	12	南図書館開館。市立図書館16館となる。
5 (1993)	10	横浜市図書館仮設館の個人貸出・閲覧業務 を停止。
6 (1994)	1	各図書館で「横浜市立図書館情報システム」 による窓口業務開始。
	2	中央図書館一部開館。
	4	中央図書館全面開館。図書館情報システム 全面稼働。
	12	南図書館で視覚障害者サービス開始。 「ゆめはま2010プラン」基本計画策定。 1区1館達成後、図書館8館の新設と地区 センター等とのネットワーク整備を計画。
7 (1995)	4	都筑図書館開館。市立図書館17館となる。
	5	緑図書館開館。市立図書館18館となる。
8 (1996)	1	中央図書館で来館困難な障害者に対する 郵送貸出サービス開始。
	3	神奈川図書館で視覚障害者サービス開始。
	5	中央図書館でCD-ROM検索サービス開始。
	12	緑図書館で視覚障害者サービス開始。
9 (1997)	3	磯子図書館、移転再整備工事着手。
10 (1998)	3	図書館ホームページを開設、インターネット による蔵書検索サービス開始。 旭図書館で視覚障害者サービス開始。
11 (1999)	3	鶴見図書館で視覚障害者サービス開始。
	5	「庁内情報拠点化事業」開始。
	11	磯子図書館、磯子区総合庁舎に移転開館。 「予約図書情報ダイヤル」サービス開始。

年	月	事 項
平成 11 (1999)	12	磯子図書館で視覚障害者サービス開始。
12 (2000)	3	瀬谷図書館で視覚障害者サービス開始。
	4	市立図書館全館で祝日等年間30日の開館日 拡大。中央図書館の火～金曜日の 開館時間を午後8時30分までに延長。
13 (2001)	12	市立図書館全館で月曜日開館開始。
14 (2002)	12	「横浜市中期政策プラン」策定。地区センター との連携、図書館情報システムの改善を 計画。
15 (2003)	1	図書館情報システムを更新。
16 (2004)	3	蔵書検索結果の資料詳細画面に、目次、 要旨、内容紹介等の情報を追加。
	5	Eメールレファレンスサービス開始。
17 (2005)	4	ホームページに「Yokohama's Memory (都市横浜の記憶)」を公開。 ホームページにバナー広告掲載開始。 地区センター等蔵書情報の公開。
	5	「地区センター等ネットワーク試行調査事業」 先行実施。
	9	図書貸出票に広告掲載開始。
	10	インターネットでの予約サービス開始。
	12	「地区センター等ネットワーク試行調査事業」 開始。(二俣川、東戸塚両行政サービスコー ナーでの貸出・返却サービス、東急田園都市 線3駅への返却ポスト設置)
18 (2006)	2	中央図書館でインターネット閲覧サービス開 始。
	10	「横浜市立図書館のあり方懇談会」開設。
	12	戸塚図書館再整備工事着手。 中央図書館「医療情報コーナー」開設。
19 (2007)	1	地域図書館5館でインターネット閲覧サービス 開始。
	2	全館に「初めて出会う絵本コーナー」開設。 中央図書館「外国語本コーナー」開設。
	3	中央図書館「ビジネス資料コーナー」改装。
	7	戸塚図書館再整備工事完了。
	8	「横浜市立図書館のあり方懇談会報告書」の 提出を受ける。
	10	全館で「ティーンズ・サービス」開始。 「地区センター等ネットワーク試行調査事業」 拡充。(青葉区内地区センター等6施設での 貸出・返却開始)
	12	「地区センター等ネットワーク試行調査事業」 拡充。(長津田駅に図書返却ポスト設置)
20 (2008)	1	中央図書館「音楽映像ライブラリー」改装。 横浜市立図書館情報紙「@Lib」創刊。